



ABM
お客様
レポート

株式会社スーパーソフトウェア様

(写真左から)
代表取締役社長 船木 雅文 様
取締役技術部長 七條 一則 様

パナソニック 電工100%出資の総合人材サービス
株式会社アロービジネスメイツ

<http://www.abm.co.jp>

人と向きあう。エービーエム

ABM

ABMの「人が真ん中」という考え方に共感。 担当者の早い対応、十分なフォローにも満足しています。

「俺がやる」「協力する」「明るくする」。
簡単なようで難しいことに立ち向かう企業精神。

大阪に本社を置く株式会社スーパーソフトウェア。
創業当初からソフト開発におけるジャンルとして
「制御系」「端末系」「データ通信システム」「基本ソ



フト(システムプログラム)を得意分野として発展し、今年、創立25周年を迎えた。朝日新聞ビルの上階にある本社で、まず目に飛び込んできたのが掲げられた行動指針だった。「にんげんだもの」で有名な

相田みつをの書を彷彿とさせる躍動感あふれる毛筆で書かれた言葉は「俺がやる」「協力する」「明るくする」。バブル崩壊後の不景気な時代に社員の

士気を高め、力強く乗り越えていくために船木社長が言った言葉だという。「簡単な言葉ですが実践するのはすごく難しいんですよ。誰もが当たり前と思っただけでも、できなければ当たり前とは言えない。だから明文化して掲げ意思統一を図っている。「顧客に惚れられる会社でありたい」。そうした企業精神が従業員に浸透しているのだろう。それが結果として顧客との間に信頼感以上の太いパイプを生むことになり、そして顧客に深耕することで、不景気な時代でも仕事量にあまり影響を受けない根太い会社となった。現在、継続して取引のお得意様は大手電機メーカー、大手エレクトロ

ニクスメーカーなど18〜20社。その仕事を正社員100名+派遣技術者40〜50名ほどでこなす、熱い技術者集団だ。
まずは「人ありき」。技術力はもちろんだが、技術者に求めるのは人としてのスキルです。

派遣技術者の活用は創立当初から。需要に対し供給が追いつかなかったからで、最近では顧客からの要求スキルの広範囲化・多様化に因應するために社外のマンパワーも動員する必要があり活用しているとのこと。派遣技術者

には同業のパートナー企業からの技術者もいれば、ABMのような派遣会社のスタッフもいるが、「区別はしていません」。なぜなら「求めるものは同じだから」。



「いちばん重要なものはヒューマンスキル。もちろん技術スキルも必要ですが、それ以前に人としてのスキルを最重要視しています」とのこと。技術者というコンピュータだけじゃいていれればいいというイメージがあるが、実際それだけでは成り立たないようだ。「ソフト開発の仕事は不確定要素が多い中、技術力はもちろんのこととして、仕様書作成フェーズやプログラム製造フェーズにおける顧客やチーム内での意思疎通が生命線となる。そのためには、お互い理解するためのコミュニケーション能力、協調性、積極性、品質へのこだわりなどが重要になってくるわけです」。ABMとのつきあいは今年からだが、同じ「まずは人ありき」という考え方に共感したのが取引することになった理由のひとつ。コンプライアンス重視の時代にパナソニック電工というバックボーンも信頼できた。「つきあいはじめたら営業担当の対応が迅速で、スタッフ・フォロー&フィードバックも十分に満足しています」と高い評価をいただいた。